

あなたのまちづくり拝見

植柳学区

住民主体のまちづくりを様々な視点から紹介するこのコーナー。

今回は、まちの元気や賑わいを高める多様な取組が、学区の方々に組織されている「植柳会」によって、「地域総ぐるみ」で行われている植柳学区を紹介します。

寺内町として

植柳学区は、おおむね新町通、大宮通、六条通及び七条通の間の東西本願寺に挟まれた地域です。江戸時代から西本願寺の寺内町として、数珠や仏壇、法衣等のお店や工房、旅館等、参拝客や仏事関係者を対象とした生業を中心とした職住近接のまちとして賑わっていました。戦前には、お彼岸の日などに正面通に人が溢れるような時期もあったそうです。

連綿と引き継がれ磨き上げられた技や、信頼関係に支えられた生業は、現在も地域の活力の原動力となっています。

多様で多彩な取組

植柳学区では、高齢者への福祉の取組や、児童や小学生を対象とした人づくりにつながる取組等が、きめ細かに行われています。

高齢者、障害を持つ方を主な対象とした福祉の取組 (場所：植柳小学校他)

- 「昼食会」(月1回)、「交流昼食会」(年1回)
- 「配食サービス」(月3回)
- 「家庭訪問派遣」(利用者の希望日)
- 福祉施設へのボランティア参加(月2回)
- 「ふれあい交流の夏祭り」児童、高齢者、一般

子供を主な対象とした取組 (場所：植柳ふれあいサロン)

- 「温もりの日」、「安らぎの日」
- 「ふれあい学級」
- 「おもちゃライブラリー」(各月1回)

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
食事・入浴介助	市民検診		廃油回収	食事・入浴介助		温もりの日
8	9	10	11	12	13	14
昼食会			ふれあい学級 配食サービス		献血	おもちゃ ライブラリー
15	16	17	18	19	20	21
敬老の日	嵐山休日		配食 サービス			安らぎの日 介護保険 講習会
22	23	24	25	26	27	28
	秋分の日		配食 サービス			自主防災教室
29	30					
			市民検診 9月 2日 献血 9月 13日			

「植柳福祉年間活動カレンダー」より



昼食会の様子

なかでも、長い間地域の人に親しまれている取組として、高齢者や障害を持つ人を対象とした昼食会があります。この取組は、高齢者問題への関心が今ほど高くなかった昭和55年、小学校の教室を借りて行うという地域福祉活動として始まりました。きっかけは、幼稚園で高齢者向けの昼食会をしているという新聞記事を目にしたことからでした。人と触れ合うことの減りがちな高齢者に、交流の場とバランスの取れた食事を提供したいとの思いから見学に行ったところ、植柳学区で実施するには調理や食事のために予想以上に広い場所が必要なことが分かりました。場所探しという暗礁に乗り上げたかに見えた取組を救ったのは、植柳小学校の協力でした。家庭科室は一汁三菜の調理場となります。保健室では、武田病院の婦長さんによる問診や血圧測定等の検診が行われます。食事は理科室でいただきます。約150人のお年寄りが植柳学区の温かさに包まれました。

遊びを通じて学ぶ

人づくりについてもユニークな取組がされています。「まちづくりを担ってもらう大人を育てるため、子ども達に教育をしています。世の中の仕組みを覚えて欲しいと思っています」と森澤会長は話されます。

「植柳ふれあいサロン」となっている小学校の一室、子どもたちにはコマや将棋、百人一首などの「昔の遊び道具」が準備されています。この場では、子どもたちは大人から遊び方を押し付けられることはありません。百人一首は神経衰弱ゲームなど、子どもたちが考えた独自の自主的なルールによって新たなカードゲームとして遊ばれます。子供たちは、自由に遊んでいるなかから、



高齢者と子供が遊びを通じて交流

自主性と創造性を自然と身に付けていきます。また、遊びを通じてルールを決めていくことを体験します。

こうして交流していく中で、子どもたちが道で会った人と恥ずかしながらに挨拶できるようになったことは最大の成果です。

地域総ぐるみの取組

充実したきめ細かな取組ができているのは、地域の各種団体の垣根を越えた協力があるからです。ふれあい交流の夏祭りでは体育振興会の若手が主として取り組みますが、女性会や少年補導委員会、消防団等の団体も協力して取り組みます。また、こうした取組を支える多くのボランティアの方々がもうひとつの原動力となっています。新年会に高齢者を無料のお食事会に招待する旅館や病院などの協力、学校などの公的な組織の協力も忘れてはなりません。こうした、地域総ぐるみの協力により、昼食会、配食サービス、家庭訪問派遣やふれあい交流の夏祭りなど多彩な取組が継続し、発展しています。

修学旅行生の受け入れ

植柳学区では、3年前から修学旅行生の受け入れを始めました。

きっかけは、旅行会社から旅館のおかみさんに、京都を体験する企画の相談が持ちかけられたことでした。地域では京都のことを良く知り、好きになってもらうことが、将来、観光客になることへつながるものとして、受け入れることとしました。

伝統工芸に触れてもらうことが中心ですが、西本願寺で新撰組が大砲を発砲した逸話など、地域の歴史にまつわる話に子どもたちは真剣に聞き入ります。当初協力してくれるお店は5、6軒でしたが、今年は36軒にまで増えました。

賑わいを取り戻し、生業を大切に 職住近接の地域づくりを

地域では、生業の問題を地域全体の課題として考えています。「昔は商売人が多かった。今は少なくなって、



植柳のまちなみ

お父さんがサラリーマンでお母さんも外で働いている、というような家庭が多くなっています。商売の方も一時ほどの賑わいがなく、商店街も少しずつ店が減ってきている状況になっています。このことは、地域全体にとって良くないことです。昔のような賑わいを取り戻して、地域で働く人を増やしていくことが必要です。そのことで、地域を見てくれる人が増え、地域が暮らしやすくなるように思っています」と森澤会長は話されます。

* * *

10年後20年後の地域の暮らしと生業のあり方を見据え、地域環境の維持向上を主体的に住民が担い維持発展させていく植柳学区のまちづくり。今後の更なる発展が本当に楽しみです。



植柳会 会長
森澤 富久造さん

地域のことを一緒にやっつけていけるボランティアをもっと増やしたいと思っています。昼食会についても、PTAのお母さんたちに手伝ってもらっていますが、今は50人くらいなので、一日一人として、365人くらいにしたいと思っています。

子供たちとの関係では、挨拶の方法だけを教えて、後は自由に遊んでもらっています。学区の多くの人と顔見知りとなり、植柳学区の子供となってもらいたいと思っています。子供さんに対しては時間がかかるけれど、ほちほちでもいいからと思ってやっています。色々見たり聞いたりしているうちに自然に、ボランティア精神や世の中の仕組みというものを覚えてもらおうとも思っています。

京のまちの今昔物語

撮影場所：三条小橋付近
(協力者：大菅 直さん、白木 正俊さん)

高瀬川にかかる三条小橋。この付近は、昭和5年に拡幅されました。昭和10年頃の写真では、現在と同じ欄干が確認できます。



昭和5年頃



昭和10年頃



現在

「京のまちの今昔物語」では、昔の写真から、現在の京都について考えることができると思います。皆さんのお宅のアルバムに、かつての京都をしのぶ古い写真がありましたら、是非お貸しください。